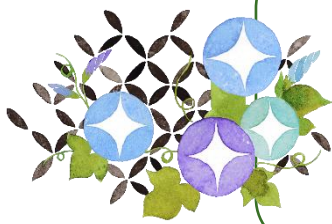


ののほなだより

2025 年 7 月

ののほな保育園・ののほな保育園そら 075-354-6927



7 月の予定

7 日（月）七夕
22 日（火）身体測定・避難訓練
23 日（水）お誕生会
26 日（土）夏のつどい



表現する楽しさを一緒に

短い梅雨が明け、今年も暑い夏が始まります。できるだけ運動不足にならないよう、プール等での水遊びもたくさん取り入れつつ、屋内でも体を動かす遊びを工夫して、夏ならではの楽しみを見つけていきます。また子どもたちは絵具などをつかった活動も何度かおこない、さまざまな色や形に興味をもってきています。夏のつどいでは、薬師山美術研究所こどもアトリエの協力のもと、カラフルな紙を使ったオブジェづくりを予定しております。子どもたちの自由な発想と、のびのび遊ぶ姿を見てもらいながら、ご家族の皆さんにも一緒に参加して、楽しんでいただきたいと思います。体調を崩しやすい時期でもありますので、できるだけ休養を取りながら、落ち着いて楽しく暑い日も過ごしていければと思います。

【園からのお知らせ】

・**夏のつどい** 7月26日（土）10時～11時半、大宮交通公園コミュニティルームにて、夏のつどいを開催します（現地集合・解散です）。子どもたちと楽しく過ごす時間にしたいと思いますので、ご家族と一緒にご参加ください。暑い時期になりますので、飲み物は各自ご用意ください。親子で工作遊びをする予定ですので、多少汚れてもいい動きやすい服装でお願いします。

・感染症情報 伝染性紅斑（りんご病）の流行が続いています、発熱がある場合には十分ご注意ください（熱が下がれば登園可能）。体温調整が難しい時期でもありますので、発熱・嘔吐の際には慎重に対応し、水分補給・休養をお願いします。

・家庭保育協力日のお願い 今夏の家庭保育協力日を、8月15日（金）・16日（土）とさせていただきます。保育体制の確保のため、ご都合がつく方は、ご家庭での保育のご協力をお願いいたします（後日、出欠アンケートでご回答下さい）。

園長コラム 「協同性」と「社会生活」



今回は『保育所保育指針』の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「協同性」と「社会生活」について、私たちが大切にしたいことを述べます。まず「協同性」は、友だちと共通の目的の実現にむけて、協力してやり遂げる力です。かつての教育・保育では、集団行動で一つの目標を達成することで、協同性を育てるとされがちだったように思います。けれどもこれからの時代は、それぞれが自分のやりたいことを持って、お互いの違いを認めつつ、協働するスキルが必要だと感じています。そのためには保育でも、先生が決めたことを一斉に文句を言わず頑張るというより、日常の中で自分たちで話し合っ、互いのよさや弱さを認めながら、役割をもち支えあえたらいいな、と考えています。「協力してやり遂げる」は3歳以上の主な目標ですが、2歳以下でも「自分でしたい」という自己主張をできるだけ否定せず、子ども同士で協力してできる機会をつくりたいと思います。もちろん自分の意見や思いが通らず、ぶつかったり我慢したり悔しがったりするのも、社会生活の大切な経験ですので、ていねいに気持ちを受け止めできるように支えていくのがおとなの役割だと考えます。本園の子どもたちは成長するにつれて、異年齢の子も含めて協力して自分たちでやろうとする気持ちが、しっかり育っていると感じています。

「社会生活とのかかわり」についても、友だちとの協同性から広がっていくイメージで、多様な人々との出会いの機会をつうじて、社会とのつながりをつくっています。近年は子どもが習い事などを含めた「先生」以外のおとなと出会う機会が少なく、「面白いおとな」と触れ合うことが少ないといわれます。ですので園では、お散歩などで地域の人々（例えばデイサービスや消防署など）とかかわったり、遊びを広げてくれるゲスト（演劇、野外活動、運動遊びなど）を招いたり、幅広い経験を増やしていきたいと思います。子どもたちは社会活動をよく観察して、すぐにごっこ遊びなどに取り入れて楽しんでいます。おとなのお手伝いや仕事のマネをするのも、社会生活とのかかわりの上では欠かせないため、いろいろな形で取り入れています。ののほの園児は外から来た人にも人なつこいと感じますが、おとなへの信頼と世の中への好奇心を、小さいうちから大切にしてきたからかなと感じています。これからも小規模園だからこそできる、協同性や社会生活とのつながりを育てる保育を、日常生活や様々な体験をつうじてつくっていききたいと思います。



今月の一冊 マーカス・フィスター作・絵 谷川俊太郎訳
『にじいろの さかな』（講談社）

美しいウロコを持つけれども仲間がいない魚が、分かちあうことの大切さに気づくお話です。何より美しい魚や海の色彩と、谷川さんの訳が魅力的で、引き込まれます。好きなものを独占したり意地悪したり、逆に与えたり人が喜ぶことに気づいたり、子どもが成長過程で通る道ではないでしょうか。意外と深い話なので、感じたことを話し合ってみると面白いかもしれません。